Ⅳ．大会実施

18、19 日：

到着・受入　　【総務】

各国チームの入国には成田国際空港を指定し、開会式の前々日 18 日および前日 19 日に成田空港に到着する選手たちを各国担当のガイドが出迎えた。ガイドは NYC から出迎えに出発することとしたが、午前 8 時までに到着予定のチームを出迎える場合には、NYC からの移動では時間的余裕がないため、該当するガイドは成田市内のホテルに前日宿泊することで対応した。また成田空港の南北二つの出口には、各国ガイド以外にガイドリーダーやサブリーダーを配置して常に複数のスタッフが出口付近に駐在することとした。数カ国については、到着日変更のような大きなフライト変更が発生したが、日本旅行の成田空港カウンターと連携して情報収集を行った。なお生徒とは別便で到着した関係者には特に対応はしなかった。出迎えは各国ガイドが 42IChO のＴシャツを着用し、また各国名入りのバナーを掲げて目立つようにし、混乱なく各国チームと出会うことができた。出迎え後は適宜数カ国程度の単位でバスで OVTA に移動し、登録手続き等を行った。ガイドは、空港での出迎え時や OVTA 到着時に各自携帯している電話で関係担当者と連絡を取り、状況把握と情報共有に努めた。

19 日午後からは、当日到着した生徒と前日到着の生徒、出迎えを行わなかった 17 日以前に到着した生徒たちが、OVTA からバスで NYC に移動した。NYC 到着時には、NYC での生活法や固有のルールなどについてガイドが説明を行った。最後のチームは開会式後の 20 日深夜の NYC 到着となったが、最後までガイドと NYC 補助員の献身的努力により、大きな問題なく生徒を NYC に受け入れることができた。

登録　　【総務】

参加者の登録は全て OVTA で行った。作業は、主に 7 月 18 日午後から 19 日午後にかけて、OVTA 本館 3 階ホールロビーに設けた登録デスクで行い、19 日深夜以降の参加者についてのみ、OVTA 本部で実施した。

登録作業は、主に、①登録費未収国からの徴収、②参加者の名前と生徒の旅行保険加入の確認（パスポートおよび保険証書のコピーの取得)、③参加者バックの配布（生徒は NYC)、④OVTA 宿泊者へのルームキー等の配布、であった。作業①および④は事前登録リストに基づいて主に日本旅行のスタッフが担当し、作業②および③はアルバイトスタッフを中心に担当した。事前連絡の内容に従って、成田駐在の日本旅行スタッフや出迎えガイドから、フライト到着時刻と OVTA への送迎バスの出発時刻および乗車した国名を連絡してもらって、到着時刻を推定しながら、必要書類などを準備して待機した。日本旅行の尽力と、アルバイトスタッフの迅速かつ積極的な対応によって、大きな事故もなく無事に終了することができた。

一部には、例えば、（指定日以降に円高が進行していたので）当日の為替レートに基づくドル建の支払いを主張したり、チェックイン時間の繰り上げなどで長時間頑張るルール違反の大人の方も居たが、生徒諸君は、概ね元気で驚くほど素直で明るく、和やかな気分にさせてくれることも多かった。

20 日：

開会式　　【行事】

NYC の大ホールで開会式が行われた。座席数に限りがある関係で、総計で 20 名程度しか関係者を招待することができなかった。最初にプロモーションビデオによる日本の紹介に続き、日本の伝統芸能である獅子舞を楽しんでもらった。舞台転換の後、野依良治化学オリンピック日本委員会委員長の先導により秋篠宮同妃両殿下が御登壇され、会場は大きな拍手に包まれた。渡辺正実行委員長が開会の辞を述べた後、秋篠宮殿下よりお言葉を頂戴し、続いて中川文部科学副大臣から祝辞をいただいた。次に李 IChO 運営委員長からの挨拶があったが、ユーモアとウィットに富んだ内容で会場を大いに盛り上げた。続いて野依委員長が挨拶を述べた。その途中で、マイクの音声にトラブルが生じ、野依委員長に数分に渡って地声でスピーチをしていただくことになってしまったのは残念な出来事であった。

その後、参加国の紹介が次々と行われ、国名を呼ばれた国の代表団が順にその場で立ち上がって、会場の皆に挨拶をしていた。民族衣装を纏（まと）った姿も少なからず見られた。最後に参加 68 カ国を代表して、日本代表の齊藤颯（はやて）君による選手宣誓が行われ、各国代表生徒が健闘を誓い合った。これは他の大会では実施されたことのない日本独特の演出である。会はスムーズに進行し、予定よりも 20 分早く終了した。

開会式当日の報道　　【広報】

報道関係者の出席は 11 媒体 19 名であった。特に NHK ニュース「おはよう日本」から生中継の依頼があった。当初は開会式を、とのことであったが、放送時間帯が 7 時台であるため、開会式会場入り口に日本代表生徒 4 名に登場願い、これまでの準備の様子や抱負について、インタビューに答える形式での中継となった（写真）。当日、取材クルーは 5 時過ぎから準備を始めるなど、数分の放送のために多大な労力が必要であることがわかった。またこれを含めて NHK だけでも朝のニュース、昼の解説、夕方のニュースでそれぞれ紹介され、反響も大きかったとのことで、以後 NHK 取材陣はほぼ連日の密着取材を行い、大会終了直後の 7 月 31 日（土）朝の「おはよう日本」で 11 分の特集番組にまとめて放送された。

歓迎昼食会　　【行事】

歓迎昼食会にも秋篠宮同妃両殿下にご臨席いただいた。会場は収容人数の関係でレセプションホールと廊下を隔てた国際会議場の 2 か所で実施した。各会場 4 ヶ国（各国 4、5 分）の生徒たちと交流をしていただいた。

司会者の乾杯の合図で昼食会を開始した。両殿下とお話しする国はお話が終わるまで食事はできないことを理解していただき、各国の生徒たちも自国の番が回ってくるのを忠実に守ってくれた。

第 1 会場のレセプションホールでの順番は、開催国の日本（代表生徒の両殿下との記念撮影はここだけ許されていたため、公式カメラマンによる撮影も行った。）／昨年度の開催国イギリス／来年度の開催国トルコ／南米のアルゼンチンの 4 ヶ国だった。それぞれ予定通り 4 分程度の懇談の後、第 2 会場の国際会議場へと移動した。第 2 会場の司会者のアナウンスによる盛大な拍手により両殿下がご入場、ここでも司会者の合図により乾杯の後、昼食会は再開された。ここでの歓談の順番は、北欧のフィンランド／東南アジアのシンガポール／初出場のコスタリカとシリアの 4 ヶ国で、シリアの生徒たちが食事につけたのは 13 時近くであった。

歓談時間が 5 分ほど余ったため、急遽、両殿下のテーブルに野依委員長、渡辺・竜田両副委員長にお付きいただきご歓談頂いた。食事の量は十分にあり、両殿下ご退出後、子供たちは都内見物（東京タワー、浅草）への出発までゆっくり食事を摂ることができた。メンター達は試験会場の検分に出かけた。

生徒・都内見学 1　　【行事】

7 月 20 日の午後は、気温 35℃を超える過酷なまでの暑さ最高潮の炎天下の中、浅草に最初のエクスカーションに出かけた。ガイドたちは初めての見学地での案内ということで、いささか緊張気味にオリンピック出場選手たちを案内していた。この後、化学オリンピックが終了するまで、早朝から深夜までガイドたちが献身的な活躍をしたことによって、今回の大会が大成功へと導かれていったと言っても過言ではない。

あまりの暑さで熱中症になる生徒が出ることが心配された。選手たちに配布するミネラルウォーターがバスに積み込まれていなかったため、引率教員自らがバスの停車した駐車場から 10 分ほどの販売店に駆け込み、重さが 10ｋｇ以上もある段ボール入りのミネラルウォーターをバスまで何度も抱えて運ばなければならないというアクシデントもあった。初日から引率教員の方がダウンするのではないかとの心配も持ち上がった。さまざまな悪条件が重なる中ではあったが、それなりに世界各国の子供たちは満足していた様子であった。

引率者・実験室検分　　【実験】

実験試験の会場である早稲田大学で実験室の検分を行った。まず受付（56-208）で来訪を国別にチェックした。器具/薬品チェックシート、不安定な試薬は置いていないことを明記した書類、チェックカードをヘッドメンターに渡した。その後、試験会場（56-3F～5F）へ移動し、科学委員がメンターに対応して検分を行った。検分終了後は、受付（56-208）で査察完了をチェックした（チェックカードに印鑑を押した後、ヘッドメンターが確認サイン）。

56 号館からバス付近 63 号館（レストラン馬車道）へ移動し、問題原案と解答を各 2 部配布した（チェックカードを回収した後、ヘッドメンターが確認サイン）。

引率者・作者との面談　　【実験】

実験室検分の後に OVTA へ移動し、作者との面談が行われた。3 つの問題にそれぞれテーブルを割当て、科学委員を 3 グループに分けて対応した。早稲田大学から幕張への移動は時間的にかなり厳しく、開始時間が遅れた。また、パーティションが当初想定していたものではなく横長であったため、変更点を待っている人たちに示せなかった。そのため、同じ点を繰り返し伝達する必要があり、想定以上に時間がかかった。また、問題の修正にも時間を要することから、かなりタイトな作業となった。

Jury Meeting 1　　【実験】

OVTA で Jury Meeting を行った。英国大会概要報告、オブザーバー参加国紹介、Steering Committee 委員の紹介に続き、20:30 より実験問題の検討を行った。

実験問題小委員会委員は全員前方に集合し、主査が司会を行い、PC 操作は委員が行った。終了は午前 1 時半過ぎ。最終的な修正が完了したのは午前 4 時という厳しい作業日程であった。主な運営ポイントは以下の通り。

・Jury メンバーが Y/N の投票で決定する方式なので、司会は進行役に徹する必要がある。
・基本的には議論を行った後に投票に移る。議論が際限なく続きそうな場合には、投票に移行するタイミングが難しい。
・何に対する Y/N の投票なのか、全員が理解するためには、何度も繰り返す必要があった。
・実験器具一式を会場に持参した事は有効であった。

21 日：

生徒・鎌倉観光　　【行事】

この日も、朝から快晴で暑かった。9 時ごろ、NYC をバス 9 台で出発し、鶴岡八幡宮の裏の駐車場に着いたのは 11 時過ぎだった。鶴岡八幡宮と小町通りを見学する予定であったが、時間がないので小町通りはカットした。鶴岡八幡宮を 30 分ほど見学した。生徒たちは、国ごとに黄色いＴシャツのガイドに付き添われて楽しそうに見学し、写真を撮っていた。八幡宮の前の階段を降りて舞殿を過ぎ、三の鳥居あたりまで散策したグループが多かった。

このあと、バスは 2 グループに分かれ、最初のグループは鎌倉大仏の向いの土産物屋の 2 階で食事し、残りのグループは先に鎌倉大仏を見学した。食事は、わっぱに入った鶏めし、ゆばけんちん汁、茶そばなどの和食だった。フォークも用意されていたが、箸を一生懸命使って食べる生徒もいた。

鎌倉大仏では、モンゴルの生徒が熱心に祈っている姿が印象的であった。しかし、日差しも強く大変暑いので、一通り見たあとは裏庭の木陰で休む生徒が多かった。裏庭には、与謝野晶子の「鎌倉や御仏なれど釈迦牟尼は美男におはす夏木立かな」の歌碑があり、カナダのガイドがなかなか上手に生徒に説明していて感心した。

このあと、建長寺に着いたのは 3 時近くだった。あいにく一部工事中であり、20 分ほどの見学でまたバスに乗った。予定していた円覚寺は省略し、夕食会場の東天紅に着いたのは 6 時近くだった。

引率者・実験問題翻訳（OVTA）　　【実験】

ファイルを USB メモリーにコピーするのにかなりの時間を要したため、予定の 9 時を若干過ぎて配布を開始した。英語圏の国の中には午前中に終了しているところもあったが、翻訳作業中に問題の間違いが発覚する可能性を考え、午後から受付を行った。終了は 19 時とアナウンスしたが、実際には 23 時ごろ終了した。早稲田に向けて発送が完了したのは 0 時半であった。表紙のファイルを別にして、国名、使用言語、Student Code、生徒氏名を MS Word で書き入れる（生徒の表紙を人数分作成する）新方式で行った。

原稿受け取りのスキームは以下の通りとした。

・USB で最終版の電子ファイルを受け取り
・印刷原稿を受け取り（Problem booklet と Answer booklet 1 つずつ）
・生徒数×2 部コピー
・生徒が使うものの表紙（Student Code、名前、使用言語を記入したもの）をコピーの上に乗せてホチキスで留める
・メンターによる落丁の確認
・生徒が使う冊子（Problem booklet と Answer booklet 1 つずつ）を封筒に入れて厳封
・各生徒の予備を封筒に入れて厳封

・シールした 4 つの封筒と予備冊子の封筒を国毎の封筒に入れて厳封
・メンターが確認書にサイン
・オリジナルと USB は本部で保管

22 日：

生徒・実験試験　　【実験】

早稲田大学で実験試験が行われた。9 時 10 分頃生徒が到着。ガイドが全員分の受付を確認し、当日朝の体温を報告した。また、ガイドを通じて伝達していたにも拘わらず、不適切な履物の生徒や筆記用具を忘れる生徒が多数いたため対応した。

10 時ごろから 57-202 教室で安全講習会を行った。英語と日本語でアナウンスし、ガイドに日本語を各国語に訳してもらう方式で実施したが、ガイドに文系の学生が多く、うまく対応できなかった国も少なくなかった。

11 時ごろから 57-202 教室で生徒は早めの昼食をとった。ハラール料理の弁当の到着が遅れたため、実験室への移動が遅れる事態となった。12 時 30 分ごろ実験会場に移動した。

試験時間は予定通り 13 時 00 分から 18 時 00 分まで行われた。振鈴により開始、終了を伝達した。トイレへの移動、休憩等は配置した人員で問題なく進行できた。

試験終了後、18 時 00 分から 18 時 30 分にトレース実験（試料濃度の当日チェックおよび正解（フルマーク）値の決定）及び実験スペースチェックを行った。チェックシートで提出物がすべて卓上にあることを確認した。作業終了後、生徒を退出させた。

引率者・都内見学　　【行事】

メンターにとって初めての都内観光の日である。まれにみる暑さの中 OVTA を出発し、皇居に向かう。途中首都高の渋滞も多少あったが、予定していた時刻には皇居に到着した。皇居前の駐車場で各ガイドごとに皇居を見物した。多くの国のメンターは、和やかに写真撮影を行っていた。東京での滞在経験のあるメンターから「途中から個人行動をしたい」旨の申し出があり、OVTA に自力で帰着できることを確認した上で容認した。暑さに加え湿度の高さに、本来暑さに強いと思われる国の方々もグロッキー気味であった。歩みは鈍くても集合時間はよく守られ、バスで浅草に向かった。見学後は食事場所へと一斉に移動するため、再集合の場所と時間を確認したのち、浅草寺境内で自由行動とした。

食事場所の雷 5656 会館へ約 5 分徒歩で移動し、食事となった。ベジタリアン、ハラルの特別食ではどこでも多少のトラブルはあるらしく、ここも例外ではなかった。その原因の多くは、予め頂いたアンケートでは食事制限ありと答えた方々でも、その場で隣の席の方がおいしそうだと思うと、そちらを食べてしまったからのようである。このような場合には、引率スタッフやガイドの方々が急遽ベジタリアンになり、事無きを得ていた。大賑わいの中、何とか全員食事を終え、バスで OVTA へ向かった。

引率者・作者との面談　　【筆記】

15:00～18:00、OVTA で作者との面談が行われた。筆記委員は 3024 室で問題ごとにテーブルを設け、主作題者を含めて 2～3 名が待機し、筆記問題案(全 9 問)・解答例・採点基準に対する各国メンターとの意見交換会を行った。訪れるメンターが予想以上に多く、時間内で全てに対応できなかった。「各国の持ち時間を制約しては」という意見も出た。建設的な意見も多いので、十分に考慮し、取り入れる必要がある。その後、限られた時間の中で修正すべきところを修正し、修正案を審査会で審査した。

Jury Meeting 2　　【筆記】

20 時より OVTA 講堂で第 2 回 Jury Meeting を開始した。筆記問題案の注意書き、公式集、周期表に関して全体で意見交換し、承認を得た後、第 1 問～第 5 問を講堂、第 6 問～第 9 問を 3024 室に分かれて審議した。第 1～5 問は部分修正を経て 24 時過ぎに終了し、第 6～9 問は部分修正後 23 時頃終了した。問題の内容、出題基準、採点基準など細部にわたるところまで議論され、投票によって決定された。一部の問題は出題者の出題意図がメンターに理解されず、削除した。筆記問題の事前検討および審議会での検討の結果、問題の難易度は全体的に低下した。そのために全体として高得点の生徒が多くなる結果となった。

23 日：

生徒・日本文化体験　　【行事】

NYC を 9 時過ぎに出発し、目黒の雅叙園に着いたのは 9 時 50 分頃だった。日本文化体験は、書道、茶道、折り紙、着付けの 4 つのコースが一つの会場に用意されていた。20 分ほどで一斉に次のコースへ移動するため、9 台のバスがすべて到着してから一斉に始めないといけないとのことで、やや時間のロスがあった。しかし、建物の中は冷房が効いていて快適だった。

どのコースも講師が英語で説明してくれたが、広い会場に大勢の生徒が入ったため、聞き取りにくいコースもあった。しかし生徒は楽しそうで、一番人気は着付けであった。男子はほとんどが着流しだったが、紋付き袴でかっこよく決めた人もいた。女子は襦袢から着せてもらい、帯も結んでご満悦で、狭いスペースだったが大変盛り上がった。茶道は数人が実際に正座をしてお茶をいただき、あとの人は周りを囲んだ椅子で点（た）て出しをいただいた。書道はお手本を見ながら「和」「愛」「志」など（英語で意味が書いてあり、生徒たちは意味をわかって文字を選んだ）を書いて、おみやげに持ち帰った。ガイドがあらかじめ生徒の名前をカタカナで書いたものを用意してくれたので、名前も入れることができた。折り紙はいくつかの丸いテーブルに分かれて座り、講師の説明とガイドの手助けで、兜や羽の動く鶴などを折った。

生徒・都内見学 2　　【行事】

12 時半ごろ雅叙園を出てバスで昼食会場の竹芝へ向かい､お台場が一望できる中華レストランで昼食をとった。レインボーブリッジと東京ベイエリアを間近に見学できるという絶好の風景を楽しみながらの昼食であった。

その後上野の国立科学博物館に見学に出かけた。戸外の煮えたぎるような暑さとは対照的なクーラーの効いた室内で、生徒たちは国境を越えて会話を楽しみながら展示を見学していた。特に化学に関する展示の前は人だかりが絶えず、展示内容を熟知している生徒が自国のガイドに説明する場面も見られた。

引率者・筆記問題翻訳（OVTA）　　【筆記】

9 時に確定した問題文冊子、解答用紙冊子（いずれも英語版）のファイルの入った USB を各国メンターに渡した。各国はそれぞれの翻訳机で各生徒の母語に翻訳した。公式の翻訳済み問題文冊子、解答冊子の提出締め切り時刻は 20 時としたが、実際は 23 時まで延びた。各国のメンターから、翻訳の細かい点に関して問い合わせなどが散発的にくるが、適宜対応できた。生徒毎にその母語の問題文冊子、解答冊子を 2 部印刷したものをヘッドメンターが提出した。それらの電子ファイルも USB に入れて提出した。ヘッドメンターの立会いの下でコピーし、生徒毎に用意した封筒に、ヘッドメンターがコピーした問題文冊子、解答冊子を 1 部ずつ確認しながら入れ、封印した。23 時過ぎに、問題冊子等はジュラルミンケースに収め、日通警備により厳重な警備で輸送された。

主催者採点・実験　　【実験】

23 日～24 日に実験問題の採点を実施した。

タスク 1　試料乾燥／収率測定／NMR 測定／TLC 評価/答案用紙の採点

タスク 2　答案用紙の採点

タスク 3　答案用紙の採点

NMR 測定では、溶媒量、試料量を固定して測定した。7 台の NMR を使用し、23 日午後から 24 日夜まで測定した。実験値の配点が各タスクの配点の 60～70%となるように調整した。実験結果はガイドラインに従い、台形を利用した採点を実施した。計算問題の採点は基本的に満点か零点とする方向で実施した。

24 日：

生徒・筆記試験　　【筆記】

前日の 18 時頃東大駒場キャンパス 5 号館に試験実施を担当するアルバイターを集め、試験実施の作業内容の概要を説明した後、試験会場の設営を 20 時まで行った。

当日 7 時 30 分に日通警備により試験問題冊子、答案冊子が届けられた。8 時 40 分、各国代表生徒が試験会場に到着し、着席表に従って試験部屋毎に分かれた。9 時 10 分に試験開始予定だったが、生徒らに「計算機の取扱説明書の持ち込みが可であると誤って伝わっている」ことが試験開始直前に判明したので、急遽 5 分間の熟読時間を設定し、予定より 10 分遅れて試験を開始した。試験時間中、各試験

部屋には常時 2 名の補助員を待機させた。

試験中に以下のトラブルが発生した。

・翻訳版問題冊子に 1 頁分欠落していた国 : 2 カ国（シリア/アラビア語版およびタイ）→生徒に英語版問題冊子を見せることで対処

・翻訳版問題冊子中の 1 つのグラフの横軸の数値、目盛り、単位が完全に欠落していた国 : 2 カ国（オランダおよびベルギー : ベルギーチームのオランダ語版はオランダチームから拝借したものと思われる）→生徒に英語版問題冊子を見せることで対処。翻訳作業での Word 文書の切り貼りで、グラフ下部の文章がグラフと重なったことを、作成したメンターが気づかなかったためと思われる

・生徒が希望した母語版問題冊子の一部の内容が理解しづらいため、英語版問題の閲覧を希望した生徒 : 1 名（ドイツ）→生徒に英語版問題冊子を見せることで対処

・試験中に、ある国のメンターが不正を試みた可能性があるとの連絡が入り、生徒に配布した問題文冊子を全て試験終了後に回収することとした。→最終的には問題はなく、大会最終日に生徒に問題文冊子を返却した。

・ネームカード忘れ : 1 名→パスポートで代用

・計算機忘れ : 1 名→予備の計算機を貸与

上記のようなトラブルのため、当初作成していた英語版（10 部）では足りず、更に 40 部ほどの追加コピーが必要となった（本来、英語版は生徒に見せてすぐに回収すべきであったかもしれない）。試験中に休憩、用足しを希望する生徒は、部屋に待機する補助員が 1 名帯同して対応した。試験開始 1 時間後あたりから、希望する生徒が増えた。試験本部では、同じ国の生徒が同じ休憩室に入らないよう、 3 カ所設けた休憩室から一つを指定した。なお休憩室には、ミネラル水、ジュース、バナナ、スナック菓子、キャンディー等を用意した。

14 時 10 分、試験終了。各試験部屋で 3 名のスタッフによる答案冊子の回収と確認作業を行った後、試験本部へ運び出し、試験本部で確認した。全室からの答案回収が確認された後、生徒を部屋から順次建物外へと誘導して待機していた各国ガイドの元へ集合させ、昼食会場となる生協食堂へ向かわせ、昼食を開始した。昼食後、生徒は午後 4 時頃まで駒場キャンパスを散策した。また隣接する生協購買部で東大グッズなどの記念品を購入する生徒もいた。15 時、試験本部で回収した答案冊子をジュラルミンケースに収納し、日通警備に OVTA までの輸送を依頼した。16 時頃、生徒は駒場キャンパス内で待機するバスに乗り込み、再開の夕べの行われる横浜へ向かった。

試験時間中（9:00～14:00）に外部者が試験会場内に立ち入らないよう、5 号館 1 階の出入り口（2 カ所）に国際警備保障のガードマン 3 名を立たせた。大学が定期試験期間中であり、自習をするために 5 号館に入ろうとした学生がいたが、幸い異常事態は起こらなかった。また、試験後にお祈りのための教室を貸してほしいという希望が出され、5 号館の空き室を使ってもらった。

引率者・鎌倉観光　　【行事】

朝、8 時前に OVTA をバス 6 台ほどで出発した。良く晴れていて猛暑であった。10 時すぎに、八幡宮のそばの駐車場に到着した。そこから少し歩いて、鎌倉八幡宮での見学と散策で 1 時間ほどの時間をとった。大銀杏が倒れたあとの様子を見ながら、八幡宮に上がっていった。各国の引率者たちはお宮を見たり、そこから見下ろす景色などを記念撮影していた。

そのあと大仏方面へ向かい、お昼前に到着した。大仏と道路を挟んで反対側のおみやげ屋の駐車場から、歩いて大仏見学へ向かった。時間は 30 分あまりしかとれなかったが、ここでも大仏をバックに各国ごとグループで記念撮影などをしていた。しかしとにかく猛烈な暑さに参っていた。駐車場のおみやげ屋さんの 2 階で昼食を摂った。狭い会場ではあったが、会席弁当で、各国ごとに席をとって和やかに日本の食事を楽しんでいた。寿司や天ぷらなどの食べ方や、飾りの菊について質問が出たりした。日本風の珍しさと味の良さで、満足感を感じている様子であった。ベジタリアン用の食事も人数分用意してあったが、急遽その場で懐石弁当に変えた人もおり、調整に手間取った。

食後、少し買い物の時間の後、全員がバスで横浜方面へ向かった。横浜では横浜港や中華街を各グループごとに自由に楽しんでから、夕方からの再会パーティーに参集した。

再会パーティー　　【行事】

再会パーティーは、パンパシフイック横浜ベイホテル東急で実施した。前日までに、参加者名簿にもとづいて座席表を決めることが大きな仕事であった。12 名テーブルが 50 卓、すなわち 600 席用意されていた。生徒、メンターやゲスト、そしてガイドらを合わせると約 590 名であったため、ほとんど席数に余裕がなく、

組み合わせに苦労した。日常生活の中でも、特に食事は参加者一人一人にとっても重要であるいうまでもないことであるが、Vegan、Vegetarian、Muslim、Kosher などにも配慮する必要があった。また、どのような国が同席であると話しが弾むかなど、それぞれの国の言語、地理、歴史などを総合的に考慮しながら座席を決めた。そして、最終的には、複数の目で座席表の位置関係を確認し合った。食事への配慮については、日本の日常生活ではほとんど考えることのないことばかりであり、食事の良し悪しは、日常生活の基本である事をあらためて痛感した。

当日 15:30 に関係者の間で事前打合せをした。16:30 には会場でダンスリハーサルなどが行われた。リハーサル会場で特に配慮した点は、巨大なスピーカーの位置である。コンサート会場の場合は、最も後方の人がちょうど聞こえるように音量を合わせる。しかし、今回は食事をしながら会話することを想定していたので、最前列の人が話しをしながら食事のできる音量とした。このため、通常のコンサート会場に比べると、スピーカーの位置を後ろにずらした。

17:30 には続々と生徒らが集まり出した。19:00 に開場し、食事が始まった。長い行列ができたが、自席でゆったりと待っている国もあった。「実験カー」のダンスと歌は、大いに盛り上がり、会場の生徒らの中には、前方に移動して踊り出す者もいた。21:00 にはバスに分乗し、それぞれの宿泊先に戻った。

25 日：

生徒・交流行事・講道館見学・鬼島太鼓　　【行事】

午前中は、11 時までガイドたちが主催する交流行事を行った。生徒たちは、クイズや体育館などを使ったスポーツを楽しんだ。11 時過ぎにバスで NYC を出発し、講道館へ向かった。車中でサンドイッチの昼食を摂った。講道館に到着したのは 11 時半くらいだった。まず 7 階まで階段を上がり、道場の入り口で柔道に関する本などをもらい、最上階の 8 階の観覧席から外国の人たちへの柔道の講習会を見学した。最上階は蒸し暑く、体調を崩す生徒が出ないか心配した。

12 時過ぎにその講習会が終わった後、実技に参加する生徒は柔道着に着替え（といってもＴシャツの上から道着の上着を着て帯を締めるだけだったが）、道場の椅子に横 1 列で座った。12 時 35 分ごろ、日本語の説明と英語の通訳で講習が始まったが、5 分ほどで柔道を紹介する日本語のビデオの鑑賞となり、それが 15 分くらい続き、実技が始まったのは 13 時近くなってからだった。

数十人の日本の中学生も一緒で、まずいくつかの技の実演があり、最後は中学生とペアを組んで乱取りの体験となった。これはどの生徒も楽しそうで、見ている方も仲間が派手な音で投げたり投げられたりするのをわくわくして見学した。最後に道場正面の嘉納治五郎さんの胸像と書に一礼して、終わったのは 13 時半だった。

講道館から戻った後、多くの生徒が代々木公園でのスイカ割りに参加した。青いシートを敷いて、スイカを置いて割ったが、使った棒が園芸用の緑のプラスチックポールだったため、なかなかうまく割れなかった。それでも割れたスイカを別のシートの上でガイドたちが次々とカットしてくれて、生徒たちは大喜びで食べていた。

夕食後は、NYC の大ホールで長野県木島平村の鬼島太鼓の演奏を鑑賞した。鬼島太鼓は村の小学生から高校生までの女子 12 人からなる和太鼓のグループで、外国公演などもしている実力派である。何曲かの演奏を聞いた後、生徒たちも数回に分かれてステージに上がり、一緒に太鼓を叩いた。終演後は、客席出口に出演者たちが来て、元気に「ありがとうございました」と言ってくれて、生徒たちは大喜び、一緒に写真を撮る人もいた。

引率者・成田・房総見学　　【行事】

この日は朝食後、メンターには生徒答案の写しが渡され、採点することができるようになっていた。採点にこだわらない国の引率者は朝 9 時 30 分から成田山新勝寺境内散策に向かった。一方、生徒の答案を念入りに確認したい国は成田山散策をカットして午後からの見学にするなど、お国柄が表れていた。

午後は、時代劇のロケ現場として利用されることの多い「房総のむら」で昔の街並み見学だった。あちこちに展示や体験コーナーが用意されているが、あまりの暑さに長屋の中でくつろぐ引率者が多かった。竹細工や浮世絵の柄の手ぬぐいなど、日本風のお土産コーナーが盛況であった。前日の鎌倉見学に続いて、日本文化に親しむ二日間であった。

Jury Meeting 3

議題は以下の通りであった。

・筆記試験の実施経過の報告と翌日の採点調整のスケジュールの発表

・2011 年および 2012 年の開催予定国から準備の進捗状況の報告
・2013 年以降の開催国の審議
・運営委員会委員の選挙実施
・IChO Regulations の改定案の審議・承認

主催者採点・筆記　　【筆記】

筆記試験後（24 日）、午後 7 時頃に答案用紙が OVTA に到着した。数の確認後、主催者側の採点およびメンター側の採点に用いる答案コピー（計 3 セット）を作成した。その後、問題毎に割り当てられた採点者、採点補助者で採点基準や採点作業について相談し、採点作業を開始した。

25 日 9 時に OVTA で各国ヘッドメンターへ自国分の答案（筆記および実験）コピーを手渡した。主催者側の採点作業は継続し、夕方までに筆記試験の結果を集計した。18 時頃、筆記と実験の総合成績を集計した。Jury Meeting 終了後、主催者側採点結果のコピー（1 部）を各国ヘッドメンターへ配布した。

26 日：

生徒・日光観光　　【行事】

朝食 7 時、出発は 8 時であった。特に渋滞もなく、高速道路を経由して 10 時過ぎに日光に到着した。連日の猛暑のために、水やスポーツドリンクを 1 人に 2 本ずつ積んで来たが、ここはずいぶんと涼しかった。バスを降りて歩き始め、杉林の間を登って、ぶらぶらと下った。途中、高校生や学生ガイドは何を話しているのか、思いついたままに、時にうつろに、時に熱っぽく話しながら歩いていた。空気がひやりと肌に心地よかった。石段をあがったところで解散し、1 時間ほど自由行動となった。三猿は人気でみな同じポーズで写真を撮っていた。各国の高校生が代わるがわる撮影するためけっこう時間がかかっていたようだ。東照宮を観てから、階段の途中で写真撮影した。いつの間にか皆が集まってピースサインを連発し、周りの人に少し迷惑をかけてしまった。その後、閉め切った部屋で昼食の鍋を食べたが、固形燃料に火をつけただけで暑くてたまらなかった。宗教の関係で食べられない高校生用には、数人の学生ガイドを走らせ、近くのコンビニエンスストアから大量にパンを買い入れた。少し土産を買って日光江戸村に向かった。途中、バケツをひっくり返すような豪雨に見舞われたが、現地では小降りになっていた。池のコイを素手で捕まえようとする者、着ぐるみのマスコットとはしゃぐ者、こまごま買い物をする者など思い思いに 2 時間ほど遊んだ。そしてお台場に寄って夕食をすませた後、NYC に帰り、最後のエクスカーションが終わった。

ゲストプログラム　　【行事】

ゲストは生徒や引率者と離れて観光することが多いが、それもこの日で最後であった。

都内の名所を数多く回ったので、最後はららぽーと船橋での買い物（Souvenir Hunting）であった。宿舎である OVTA とららぽーとをバスがシャトル運行し、ゲストと採点調整（Arbitration）に余裕のある引率者が利用した。

日本は物価が高いという印象をもつゲストも多く（これまでにもう十分購入した？）、積極的な買い物というよりは、東京の「都市」「生活」の部分を垣間見るという一面の方が強かったように思う。ゲスト対応を中心とするガイドの学生たちの活躍により、彼らは全員無事に自由行動を終えることができた。

引率者・採点調整　　【実験・筆記】

9:00～15:00　OVTA で採点調整会を行った。

筆記試験に関して：

1）2 重減点との抗議を受け、採点基準を変更した箇所が第 2、5、8、9 問にあり、全答案について該当箇所を見直した。以下に、問題となった具体的な内容を示す。

a）「2 重減点」とするかどうかのケーススタディ：

ケース 1）ある一つの問題中、小問 A を間違え、その答えを使って続く小問 B を解いた結果、不正解となるのを防ぐ。小問 A が正しければ小問 B も正しくなるような解答ならば、小問 B の解答は正解とする。

ケース 2）根本的な理解がないために、小問 A が解けないし、また小問 B も解けない場合。

ケース 3）小問 A を間違え、小問 B も間違えていて、これらが同じミスかどうか判断できない場合。

b）メンターとの得点交渉のやり取りで採点基準が変わった場合、すべての生徒に対して同じ基準を

適用するかどうか：
　指摘をしてきたメンターに対してのみ加点するか、すべての答案を見直して、指摘をしなかったメンターの国の生徒に対しても同様に加点するか。
2）4 カ国(ポルトガル、チェコ、韓国、ハンガリー)でメンターの誤訳に基づく誤答に対する減点の取り扱いに関して救済をしつこく要求された。主催者としては拒否していたが、IChO 運営委員長の判断で最終的には救済措置することとなった。
3）その他、メンターによっては強引な得点の見直し要求が見られた。交渉によって一点でも加点させるのがメンターの仕事でもあるので、かなり強引な要求は当然である。
15:00～20:00、科学委員会を開き最終的な成績の確認後、メンターへ最終成績データを配布する予定であったが、集計する作業で手一杯となり、十分な点検作業が行えなかった。
21:00、メンターへ各生徒の最終成績を配布したところ、相当数の集計成績に計算処理上のミスがあることが指摘され、大騒ぎとなった。結局、各メダルの境目を決める Jury Meeting の開催は、急遽翌日 9 時からに延期した。
21:00～翌朝 6:00、再集計作業を徹夜で行った。

Jury Meeting 4
新運営委員会のメンバー紹介、及び IUPAC 支援金の使途説明があった。
採点調整結果の集計トラブルにより、メダル分布の議論は急遽翌朝に変更と決定した。

27 日：
Jury Meeting 5
8:00～各国ヘッドメンターへ最終成績表を配布した。9:00～第 5 回 Jury Meeting（臨時）を開催した。講堂等が使えなかったため、食事と休憩のために使っていた“渚”で実施した。まず得点調整会と得点集計で起こった問題点の報告後、メダル確定の審議に入った。金メダル、銀メダル、銅メダル受賞者の境界点は、科学委員会で予め想定した点で合意が得られた。メダル配分の決定が遅れた事に対して特に抗議もなく、短時間で審議を全て終了した。

閉会式　　【行事】
大隈講堂に午後 1 時に集合し、受付関係の準備を始めた。来賓の座席やその微調整、及び成績発表のプロジェクター画面の確認などを開会式の直前までスタッフが行った。
3 時に開式。大会全体を振り返る映像が美しくスライドショーで写し出され、気持ちが盛り上がった。主催者や来賓の挨拶の後、いよいよ成績発表が始まった。事前に細かく時間配分と学生ガイドの役割分担と進行の仕方を決めていたので、混乱もなく時間の遅れも全くなく、順調に進行した。発表と同時に表彰された選手生徒が演壇の下に集まった。国旗を身にまとったり、民族衣装で誇らしげに表彰に向かった。会場からも熱いエールが送られて、銅メダル、銀メダル、金メダルとだんだんとボルテージが上がっていった。そのあと最優秀の選手が特別表彰を受けた。最後に次回ホスト国であるトルコに大会旗が手渡されて、無事閉会式が終わった。シンプルで力強く感動的な閉会式になった。参加者全員が満足気な余韻をもって大隈講堂を出て、講堂の前では記念写真を撮る光景が見られたりした。

閉会式当日の報道・記者会見　　【広報】
報道関係者の出席は 29 媒体、35 名であった。4 月代表生徒決定の記者会見以降の継続した情報提供により、化学オリンピックに対する報道関係者の関心は高く、化学業界紙や教育専門紙だけでなく、四大新聞（朝日、毎日、読売、産経）、日経、および NHK（首都圏と大阪）、テレビ朝日の報道部、オンラインメディア、外国通信社等多岐にわたる報道機関が出席した。
代表生徒の好成績により、記者会見での質疑応答も活発に行われ、報道記事は閉会式直後から 7 月 31 日までで 78 件、以降も化学オリンピックの意義や化学に優れた人材の育成の重要性などに言及した記事が継続して掲載されている。
特筆すべきは、NHK の朝のニュース番組「おはようニッポン」が、開会式直前の代表生徒への取材から大会期間中を通して生徒のみならず関係者へも綿密な取材を繰り返し、7 月 31 日に特集番組を放映したことである。取材コメントや映像を通して大会の様子や日本大会開催の意義、化学教育の課題などが全国に伝搬された。

さよならパーティー　　【行事】

今回の行事の最大のイベントである表彰式が終わり、高校生、メンター、ゲストが国ごと大隈講堂の前で写真を撮った。知り合った友人とも、民族衣装を着て、国旗を抱えて写真を撮っていた。晴れやかな気分で、どことなく安堵している様子でもあった。ひとしきり講堂前の時間がすぎてから、学生ガイドに促されて歩いて数分のリーガロイヤルホテルに向かった。談笑しながらパーティー会場に着くと、その流れで各国の席に着き、食事会が始まった。日本では高校生主役のパーティーでお酒を出すことは考えられないので、お酒無しのとっても静かなパーティーとなった。ダンスや歌を歌うこともなく時は過ぎ、帰りの時間となった。高校生は学生ガイドと NYC に、メンターとゲストは OVTA へとバスで帰ってゆき、こうして国際化学オリンピック日本大会は静かに幕を閉じた。

さよならパーティー at OVTA　　【総務】

早稲田リーガロイヤルでのさよならパーティー終了後に OVTA に帰ってきた引率者とゲストでさよならパーティーの二次会を開催した。本大会では再会パーティー、さよならパーティー共にアルコールの提供はなかった。そこで、引率者とゲストのためにワイン、ビール、一升瓶の焼酎と日本酒、およびおつまみとささやかなものであったが準備し、立食形式でいつも食事に使っていた渚のレイアウトを変更して行った。もちろん参加は自由であったが、夜 9 時頃から順次早稲田のリーガロイヤルホテルからバスが到着し、参加者が時間と共に増えていった。成績発表を含めてすべての仕事が終わった後ということもあり、参加者はこれまでと違いリラックスした雰囲気であった。飲み物に関しては日本酒と焼酎は初めての人も多かったようで、銘柄の異なるものを何種類か用意して飲み比べてもらったところ、好評で 1 時間ほどで無くなってしまった。参加者の歓談は尽きることなく次の日が帰国であるにも拘わらず 1 時を過ぎてもパーティーは続いていた。参加者たちは来年トルコでの再会を楽しみにして日本でのすべての行事を終えた。

28 日：

出発・NYC　　【総務】

当日は生徒が NYC をバスで出発後、OVTA を経由してメンターらと合流し、直ちに成田空港や羽田空港へ向かうことになっていたため、生徒は午前中の NYC 出発を余儀なくされた。第一団は午前 5 時のバスで NYC を出発するグループであった。4 時半に部屋の鍵とシーツの返却などを行い、ガイドやスタッフとの別れを惜しみつつ OVTA へ出発していった。以降、このような出発がバス 13 台分、五月雨式に続いた。NYC 責任者を始めとする担当者たちは、4 時に集合しチェックアウト業務を開始した。早朝出発のため、生徒・スタッフともに食堂での朝食は取れないので、パンやジュースなどの軽食類を前日までに人数分確保しておき、随時提供した。予定通り 10 時にはすべての生徒が無事に出発した。

生徒の出発と相まって、当日の午前中に宿泊部屋の鍵とシーツをすべて NYC 側に返却し、かつ使用した宿泊棟施設の掃除をすべて大会側で行う必要があった。これには、手の空いているスタッフ、補助員、ガイドが総出で対応した。

昼食後、NYC に駐在した全大会関係者が集まり、ガイドと補助員の解散式を行った。

その後、スタッフ総出で本部や広報など全使用会場の撤収作業を行い、夜までには完了した。大きなトラブルもなく、NYC の大会関係者はこれで任務を終了した。

出発・OVTA　　【総務】

帰国は羽田からと成田からの 2 つに分かれた。最初に帰国する国は羽田に 6 時には着いている必要もあり、OVTA を 4 時過ぎに出発した。生徒と引率者は一緒に帰国するため、4 時に出発する国の生徒は前日さよならパーティーのあとそのまま引率者と一緒に OVTA に来て、早朝の出発となった。朝 4 時だと通常の食事は準備できないので、バナナ、ヨーグルトにパンを用意して持って行ってもらった。4 時以降はある程度まとまってバスで出発してもらった。NYC から生徒が乗ったバスが到着し、それに引率者が合流して、生徒は基本的にトイレ休憩程度の下車をするだけで順次出発していった。28 日以降も日本に滞在し、当日大使館を訪問する国やそのまま OVTA に延泊する国もあった。しかし我々主催国の義務は 28 日の出発までということになっていたので、必要に応じて手配を行い、午後 1 時にはすべてのバスを見送り、送り出す仕事は終了した。

また、当日午前中から撤収作業を送り出しと並行して行い、すべての機材の撤収・送り出しを午後 3 時頃には終え、ガイドと補助員の解散式を行って OVTA スタッフの大会期間の仕事は完了した。

大会中・大会後の広報活動：

記録画像等の公開　　【広報】

静止画、動画共に公式カメラとして、各国選手団の到着、登録からさよならパーティまでを撮影し、画像提供を行った。

静止画は毎日 1,000 ショット以上を撮影し、その日の内に 30 枚程度を選択し、報道関係者向けに HP に公開したことで写真付き報道記事への迅速な対応ができた。後日、フォトギャラリーとして 1,600 枚程度の画像データを HP に掲載した。これは参加者からのダウンロードの要望に応えられるギャラリーとなった。また、参加生徒と学生ガイドの集合写真を撮影して希望者に配布し、報道資料や紹介記事など多方面で活用して戴いた。

動画撮影もほぼ全てのプログラムに同行し、参加生徒の活き活きとした様子から試験直前の緊張感、閉会式での歓喜の表情までを収録し、5 分のダイジェスト映像に集約した。ダイジェスト映像は HP で公開すると同時に支援者にも DVD として配布した。大会期間中の空気を伝えるメディアとして効果的であった。

特に、試験会場での公式カメラの映像は貴重な記録として報道番組へ提供し、活用された。

なお大会ホームページは今後も維持される予定である。

Catalyzer の刊行　　【Catalyzer】

大会期間中（18 日～28 日）は Catalyzer 編集局を代々木 NYC に設置し、3 号～11 号の取材、編集および発行作業を行った。

また、2010 年 12 月の国際運営委員会（トルコ）の開催時期に合わせて、最後のエクスカーションと閉会式・さよならパーティを取り上げた第 12 号を発行した。

翻訳室の設営・管理・撤収：　　【技術】

使用機器など：

コンピュータ

・ノート PC 75 台（68 国× 1 台 +予備 7 台）
・機種: HP Compaq 6710b
・OS: Microsoft Windows XP 英語版

ソフトウェア

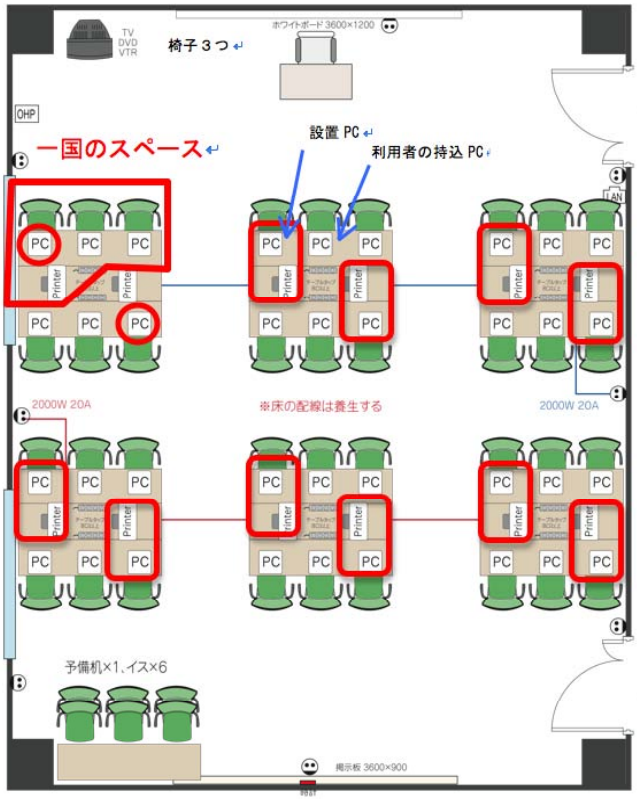
・Microsoft Office 2007 Standard 英語版
・Microsoft Office Multi-Language Pack 2007

プリンタ

・Inkjet Printer 78 台
（68 国× 1 台＋予備 10 台）
・機種：Canon iP4500

翻訳室：

1 室あたり 11～12 カ国が使用し、全 6 室とした。1 国あたりの使用スペースは、3 人がけ机 1.5 台とし、机 3 台を 2 国で使用した。机のサイズは、幅約 1800mm×奥行き約 600mm。椅子を 1 国あたり 3 台とし、1 室あたり予備として 6 台～12 台を用意した。持ち込み PC 用に 1 国あたり 2 口のコンセントを用意した。



座席配置：

Argentina	Cuba	
Costa Rica	Mexico	China
Peru	Spain	Brazil
Uruguay	Venezuela	Portugal
Ukraine	Tajikistan	Moldova
Kazakhstan	Russia	Turkmenistan
Mongolia	Kyrgyzstan	Turkey
Armenia	Belarus	Bulgaria
Iran	Lithuania	Estonia
Syria	Finland	Latvia
Kuwait	Sweden	Denmark
	Norway	Hungary

Pakistan	Singapore	Thailand
Ireland	Viet Nam	Malaysia
Slovakia	Czech	Iceland
Croatia	UK	Indonesia
Australia	USA	
New Zealand	Canada	India
Austria	France	Netherlands
Germany	Switzerland	Belgium
Azerbaijan	Poland	Slovenia
Greece	Cyprus	Korea
Israel	Italy	Japan
Chinese Taipei	Romania	

日程：

2010 年 7 月 17 日　PC、プリンタ等の搬入を行った。
2010 年 7 月 18 日　翻訳室への機器の設置を行った。
2010 年 7 月 19 日　言語設定、動作確認を行った。メンターの見学があった。
2010 年 7 月 20 日　言語設定、動作確認を行った。メンターの見学があった。
2010 年 7 月 21 日　翻訳日。機器に関する質問等に応対した。
2010 年 7 月 22 日　機器の動作確認と消耗品の補充を行った。
2010 年 7 月 23 日　翻訳日。機器に関する質問等に応対し、撤収作業を開始した。
2010 年 7 月 24 日　機器の撤収作業を行い、レンタル品を業者に返却した。

PC 言語環境のインストールと設定：

Microsoft Office Multi-Language Pack 2007 を用い、下記の国別設定内容の言語をインストールすることにより、MS-WORD の言語環境（メニュー等の表示）を各国語に対応させた。言語入力システム（IME）について、さらに詳細な国別の設定を行った。キーボードステッカーの貼付けは、英語以外の言語ほぼ全てについて行った。PC の画面表示文字サイズを最大とした。プリンタドライバーを英語モードでインストールし、印字品質を標準、モノクロ印刷とし、印刷後のページが昇順となるよう最終ページからの印刷の設定を行った。PC のデスクトップに国旗を設置した。

国別設定内容：

Country	Language Pack setting Key Stickers	IME setting
Argentina	Spanish	Spanish (Argentina)
Costa Rica	Spanish	Spanish (Costa Rica)
Cuba	Spanish	Spanish
Mexico	Spanish	Spanish (Mexico)
China	中文（簡体)	Chinese (PRC)
Peru	Spanish	Spanish (Peru)
Uruguay	Spanish/Eng	Spanish (Uruguay)
Spain	Spanish	Spanish
Venezuela	Spanish	Spanish (Venezuela)
Brazil	Portuguese (Brazil)	Portuguese (Brazil)
Portugal	Portuguese	Portuguese (Portugal)
Ukraine	Russian	Russian
Kazakhstan	Russian/Eng	Russian/English
Tajikistan	Russian/Eng	Russian/English
Russia	Russian	Russian

Moldova	Russian	Russian
Turkmenistan	Russian/Eng	Russian/English
Mongolia	Russian/Eng	Russian/English
Armenia	Russian/Eng	Russian/English/Armenian
Kyrgyzstan	Russian	Russian
Belarus	Russian	Russian
Turkey	Turkish	Turkish
Bulgaria	Bulgarian	Bulgarian
Iran	Arabic	Falsi/English
Syria	Arabic	Arabic (Syria)
Lithuania	Lithuanian	Lithuanian
Finland	Finish	Finish
Estonia	Estonian/Eng	Estonian/English
Latvia	Latvian/Eng	Latvian/Russian/English
Kuwait	Arabic/Eng	Arabic/English
Sweden	Swedish	Swedish
Norway	Norwegian	Norwegian
Denmark	Danish	Danish
Hungary	Hungarian	Hungarian
Pakistan	Eng	English (US)
Ireland	Eng	English (US)
Singapore	Eng	English (US)
Viet Nam	Eng	English (US)
Thailand	Thai	Thai/English (US)
Malaysia	Eng	English (US)
Slovakia	Slovak	Slovak
Croatia	Croatian	Croatian
Czech	Czech	Czech
United Kingdom	Eng	English (UK)
Iceland	Icelandic	Icelandic
Indonesia	Eng	Indonesian/English (US)
Australia	Eng	English (Australia)
New Zealand	Eng	English (New Zealand)
USA	Eng	English (US)
Canada	French/Eng	French/English (Canada)
India	Eng	English (US)
Austria	German	German (Austria)
Germany	German	German (Germany)
France	French	French (France)
Switzerland	French/German	French (Switzerland)/German (Switzerland)
Netherlands	Dutch	Dutch (Netherlands)
Belgium	Dutch/French	Dutch (Belgium)/French (Belgium)
Azerbaijan	Eng	English/Russian/Azeri
Greece	Greek	Greek
Poland	Polish	Polish
Cyprus	Greek	Greek
Slovenia	Slovenian	Slovenian
Korea	Korean	Korean
Israel	Hebrew	Hebrew
Chinese Taipei	Chinese (Taiwan)	Chinese-Traditional
Italy	Italian	Italian (Italy)
Romania	Romanian	Romanian
Japan	日本語版 Windows XP	ローマ字カナ漢字変換